新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：平成29年7月14日（金）17:45～18:45

場所：脳研究所 1F 検討会室

Epigenetic Regulation of Homeostatic Synaptic Plasticity through the Chromatin Reader, L3mbtl1

二井 健介 先生

Department of Psychiatry
Brudnick Neuropsychiatric Res. Inst.
Univ. of Massachusetts Medical School
Worcester, MA 01605, USA

(新潟大学脳研究所共同研究拠点国際共同研究者)

恒常性シナプス可塑性は、活動依存的な遺伝子発現機構を介しシナプス後部のグルタミン酸受容体数を増減することにより発現される。遺伝子発現にはクロマチン結合タンパクによるクロマチン構造の修飾が必須であるが、恒常性シナプス可塑性に寄与するクロマチン結合タンパクはほとんど同定されていない。本セミナーでは、クロマチン結合タンパク、L3mbtl1 (Lethal 3 malignant brain tumor like 1) を紹介することにより、恒常性シナプス可塑性へのクロマチン修飾機構の寄与を議論したい。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：細胞神経生物学分野)
新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之